

# YMCA Camp 100 Stories vol. 25

クラフト指導 40 余年  
合言葉は  
“小さな手は魔法の手”

永井 勝彦

Katsuhiko Nagai

アトリエ「麦秋」主宰  
図画工作教科書執筆者  
東京YMCA造形あそび教室講師  
東京YMCA社会体育・保育専門学校講師  
ほか



## ▼YMCAとの出会い

私がYMCAと出会ったのは1976年。全国工芸教育協議会と共催された「赤城・親と子の工芸村」というキャンプに、クラフト指導者として参加したのがきっかけでした。それまで他団体のキャンプに行ったことはありましたが、初めてYMCAの「組織的な教育キャンプ」というものを見てびっくりしました。朝から夜まで丁寧にプログラムが組まれていて、リーダーたちもしっかりしていて、まさに目からウロコでした。私は魔法にかかったかのようにキャンプに魅了されて、そしてその魔法の火は消えなかったんですね。以後40年余経った今もYMCAでクラフト指導を続けています。



## ▼キャンプの「スパイス役」として ～ レポートリーは500超に

「工芸村」は3泊4日でクラフトをするキャンプで、18年間実施しました。やぐらを組んで2階建ての秘密基地を作ったり、ウォータースライダーを作って湖に飛び込んだり。20人乗りのいかだを作って無人島に出かけたこともありました。

1995年からクラフトは、通常のキャンプでの選択プログラムの一つとして定着していきました。いわば「キャンプのスパイス役」です。

どんなクラフトにするかは、場所や目的にあわせてリーダーと相談しながら考えます。そして実際に子どもたちと制作する中で、さらにアイデアが出てくる。どんどんアイデアが増えていって、レポートリーは500を越えました。



## ▼キャンプ・クラフトの魔法① ～グループ製作の力

キャンプでのクラフトには、キャンプでしか生まれない魔法のような魅力があります。

東日本大震災のときのリフレッシュキャンプでは、被災地の親子にどうか笑顔になってほしいと思い、5メートルの巨大な鯉のぼりを作りました。目を描く人、ウロコを作る人。できあがった鯉のぼりを見上げながら「こいのぼり」を歌ったときには、皆さん涙ぐんでいました。みんなで作る感動というのがあります。



グループで一つの物を制作すると、一人じゃできないダイナミックな作品ができますし、達成感もある。グループの人間関係が築かれていくこともありますし、工作が苦手な子が驚くほどの集中力を発揮することもあります。

## ▼キャンプ・クラフトの魔法② ～ 自己表現



キャンプ中に子どもたちはたくさんの刺激を受けて周囲が気になっている状態なわけですが、クラフトでは心を落ち着けて自分で考えて、自分の手で作り上げる、すごく主体的で集中した時間を過ごします。作品には、心の中のものが表されますし、思いもよらないアイデアや、意外な一面が表現されることもある。それによって友だちを見る目が変わることもあります。

以前に発達障がいのある子どもたちのキャンプでフォトフレームを作ったところ、専門家に「箱庭療法の役割を果たしている」と言われたこともありました。

## ▼キャンプ・クラフトの魔法③ ～ 遊べるクラフト



幼児さんたちはお泊りするだけで大冒険なので、ビニール袋に花紙を入れて「ポニョ（魚のオモチャ）」を作るなど、簡単なクラフトにします。すると子どもたちは「ポニョ」を連れてプールに行ったり、お風呂に入ったりと一緒に遊びます。ポニョのお世話をすることで、ホームシックが和らいだという報告もありました。



鳥に似た音を出す「バードコール」は、鳴らし続けるうちにリアルな鳥の鳴き声に変わっていく木工細工で、子どもたちはキャンプ中それを持ち歩いて「まだヒヨコくらいかな？」などと言って育て、大事に持って帰ります。保護者にもキャンプでの営みが共有できるという素晴らしさもあります。

## ▼キャンプ・クラフトの魔法④ ～ リーダートレーニング

私はボランティアリーダーたちに、自然に親しみ作品を生み出すといったクラフトの意義と、のこぎりなど道具の安全な使い方、また子どものアイデアを引き出す制作支援方法などを教えています。何を作るか迷っている子どもに「○○しなさい」と言わないで上手く導く方法や、自然とのふれあい方などは、クラフト以外の場面でも役に立つと言われています。



## ▼キャンプ・クラフトの魔法⑤ ～ 私自身にとって

私はふだん、都内でアトリエを主宰していて、学校の図画工作の教科書も書いたのですが、キャンプでのクラフトには「キャンプというケタ違いの時間」の中でしか生まれないアイデアや魅力があります。

キャンプ前はいつも、今度はどんな子どもたちが来るか、どんなプログラムが創り上げられるか本当に楽しみです。自分の成長にもなるし、子どもたちの成長にもつながる。そこに子どもたちの笑顔が見られるのですから、こんなに嬉しいことはありません。



### Profile



アトリエ「麦秋」主宰。学校の図画工作教科書の執筆者でもある。東京YMCAではさまざまなキャンプでクラフト指導をするほか、東京YMCA社会体育・保育専門学校講師、造形あそび教室講師、障がいのある子ども達の造形クラス講師、ボランティアリーダーの研修講師など幅広く活躍し、多くの青少年を育てている。キャンプネームは「つるじん」。

【聞き手：岡田ナスカ 文・東京YMCA広報室（高田京子）】